

# カジノ法案 自民内に不満

## 衆院議長も国会運営に注文

自民党は5日の政府・与党連絡会議で、「統合型リゾート（IR）整備推進法案」（カジノ法案）を6日午後の衆院本会議で可決し、参院に送付する方針を示した。ただ、5日には自民党内で「国民に説明できない」などの不満が表面化。自民出身の大島理森衆院議長も、最近の自民党の国会運営について、国会情勢が一段落した後で注文を付ける意向を野党側に示唆した。

【飼手勇介】

自民の竹下巨国対委員長は連絡会議で同法案について「6日の衆院本会議で議決したい」と語った。公明党幹部も同席したが、自主投票で対応するため発言を控えた。

自民内の不満が出たのは、参院自民党の政策審議会の勉強会。マネーロンダリング（資金洗浄）やギャンブル依存症対策などの具体的な記述が法案にならな

仕組みばかり。カジノは金持ちからいたたくものだ」と主張する意見や、地方活性化への期待が示された。

一方、民進、共産、自由、社民の野党4党幹部は5日、同法案を衆院本会議で採決しな

## 民進、衆院採決退席へ

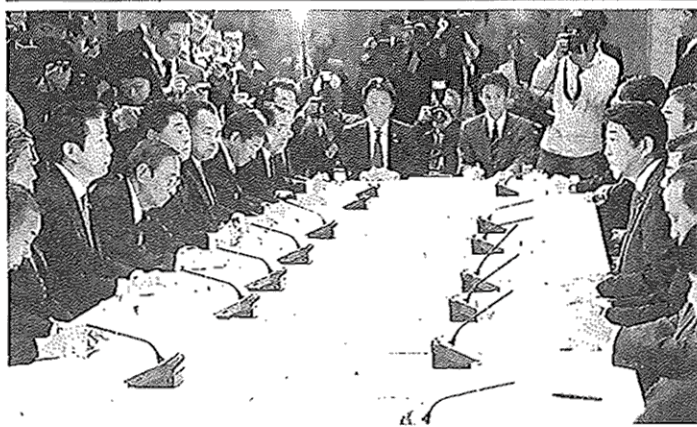
民進党は5日の党執行役員会で、カジノ法案を6日の衆院本会議で採決する自民ペースの日程には反対すると

大島氏は「手続きの瑕疵があったとは思っていない。法案の本身を判断する立場になり」と答えるにとどめた。

ただ、山井和則民進党国対委員長によると大島氏は「採決のあり方に関し、全体像とし

共産党の小池晃書記局長は5日の記者会見で「主要新聞全紙がカジノ法案に反対の社説を出すのは皆既日食みたいなものだ。めったにあることではない。これを踏みこむのは言語道断だ」と語った。

一方、民進内の賛成派議連は5日に会合を開き、会長の長島昭久元副防衛相は「法案審議のプロセスは言語道断だ（党内は）一致している」としつつ、「党内議論を活性化する対策、修正案を考えたい」と語った。【寛西大博】



政府・与党連絡会議であいさつする安倍晋三首相（右列中央）。左列手前から3人目は公明党の山口那津男代表＝首相官邸で5日、川田雅浩撮影